

ネットの怪物性 子どもに警鐘



「スクールネットワークアドバイザー」代表

赤木聡さん(46)に聞く

高校2年生の84%がスマートフォン(スマホ)を持ち、前年から倍増。昨年、県教育局の抽出調査でこんな実態が明らかになった。インターネットに簡単につながるスマホの利用には、トラブルや犯罪に結びつく恐れも潜む。赤木聡さん(46)は仲間とともに「スクールネットワークアドバイザー」をつくり、これまでに500校以上で700回を超える講演をしている。

——子どもたちにネット社会とのかかわり方を説く活動をされています。

「子ども、保護者、学校の教員みんなが協力して、自分の身は自分で守ることができると子どもにしよう、という一点に尽きます。ネットを巡るトラブルは多岐

にわたります。便利な無料通話アプリ『LINE』やツイッター、フェイスブックなどのSNSは、使い方を一歩間違えると深刻なトラブルにつながります」

——具体的には。

「1対1でやっているうちには問題も少ないが、グループを組んでチャットを始めるとトラブルは急増します。『LINE』で、既読マークが表示されているのに返信がない『既読スルー』を理由に、仲間外しやいじめが起こる。メッセージが伝わっているのに無視するのか、と感情的なこじれが生じるのです。また、友だちの自動追加の設定やID検索機能をオフにしないと、誰だかわからない相手からもメッセージが来るようになってしまいます」

——確かに、面識のない人と交流できるネット上のコミュニティサイトを利用した犯罪が増えていきます。今年の上半期に警察に保護された少女少女が過去最悪の人数に、という実態も明らかになりました。

いじめ・ストーカー…大人が教えて

あかぎ・さとし 1968年、札幌市生まれ。札幌南高卒。88年ごろからITコンサルタントやコンピューターサポート、ソフトウェア制作などの事業を手がける。昨年、仲間と「SNAスクールネットワークアドバイザー」として独立、代表を務める。9月に『インターネットトラブル防止ガイド』(共編著、ラピュータ)を出版した。

「耳障りの悪い言葉がいくつも生まれています。たとえばリベンジポルノ。交際相手から別れを切り出された腹いせに、交際中に撮影したプライベートな写真をネット上に流出させる、といった性犯罪です。昨年10月には、東京・三鷹市では元交際相手の女性の殺人事件まで起こりました。写真や動画はいったんネットに載ってしまうと痕跡が残り、個人の手が及びません。悪意のあるものは論外ですが、好意で友人の写真

を無断でネット上に載せて、第三者に顔や体を加工されて炎上を招くこともあります。こうしたデータは『デジタルタトゥー(入れ墨)』と呼ばれるほど増殖力が強く、なかなか消せないのです」

「スマホなどのGPS(位置情報)がオンになっていると居場所がわかり、ストーカーの標的になってしまうこともある。一歩の過ちが一生を台無しにしてしまう、という危険性を認識してほしい」

——スマホは「怪物」なのでしょか。

「携帯電話やスマホ、パソコンなしの生活は想像ができないでしょう。とても便利で有用なツールだからです。ただ、使い方を誤ると怪物に化けてしまう。その怪物を安易に子どもに渡してしまっている側、つまり大人の責任が非常に大きいのです。ネチケット(ネットエチケット)を身につけた大人の役割がとても大切。保護者や教師は、ネットとのかかわり方を子どもたちと一緒に話し合ってください」

(春山陽)